

## クオリカ株式会社

東日本大震災で決断した事業継続計画強化  
そこからワークスタイルの変革を目指し  
中核セキュリティ技術として選ばれた  
CA Strong Authentication/CA Risk Authentication

多様なアクセスを可能にするテクノロジーと  
グローバル金融機関で高い採用実績を誇る  
CA Technologies を高く評価



クオリカ株式会社  
常務執行役員 技術部長

会田 雄一 氏



クオリカ株式会社 技術部  
全社 IT アーキテクト 主幹

坪口 智泰 氏

製造業、流通・サービス業向けに業務用システム開発、パッケージソフト開発、システム運用、情報端末製造などの幅広い事業を展開するクオリカ株式会社。同社は2011年3月の東日本大震災の発生を契機に事業継続計画の強化を経営の最優先課題に設定した。それは社屋移転を伴う、ワークスタイル大変革をめざす一大プロジェクトになった。

柔軟な働き方を可能にするには選択するセキュリティ技術が要になる、と同社は判断。検討の結果、SSL-VPNと本人認証という二重のセキュリティを施すことを決定した。この本人認証の技術として選ばれたのがCA TechnologiesのCA Strong Authentication/CA Risk Authenticationだ。この製品の導入により、居場所を問わず安心して情報資源にアクセスし、業務遂行できる体制が整った。

## 東日本大震災を契機に、事業継続計画の強化を決断

クオリカ株式会社（クオリカ）は、コマツの全額出資により誕生した情報システム企業だ。1982年の創業以来、製造、流通・サービス業向けに業務用システム開発、パッケージソフト開発、システム運用、情報端末製造などの幅広い事業を展開。2008年にはITホールディングスグループの一員となり、グループ各社と連携することで総合力を強化し、顧客の多岐にわたる要望に答えている。

クオリカが事業継続計画の強化を考えたまっかけは、2011年3月11日に発生した東日本大震災だった。同社が物理的な被害を受けたわけではなかったが、関連会社の東北地方拠点などの被害を目の当たりにした。また、東京都においても計画停電が実施されたり、交通機関が混乱するなどの問題が発生した。万が一、事業所の所在地で災害が発生したとしたら、企業活動は大きなダメージを被ることは免れない。それをどう回避するかが同社にとって優先的に解決すべき課題となった。

クオリカでは事業継続の重要性をどう捉えているのか。クオリカ株式会社 常務執行役員 技術部長 会田雄一氏は次のように語る。

「当社はシステム開発のみならず、運用や問い合わせ対応などさまざまなITサービスを提供しています。そこには人間による作業もありますから、いかにシステムが安全に守られていても、当社のエンジニアが動けなければどうしようもないこともあります。つまり、私たちの企業活動が止まるということは、顧客の企業活動が止まるということなのです。それは絶対に回避しなければなりません。簡単ではない課題でありましたが、これを実現できれば“ビジネスを止めないクオリカ”として、新規顧客に当社をアピールするポイントになるだろうとも考えました」

クオリカでは2つの施策を進めることになった。1つは、社員に対して情報資源の管理が必要なクライアントPCを配布するのではなく、すべてをサーバ側で一括管理可能な仮想デスクトップ環境に全面的に移行すること。もう1つはオフィスへ出勤できない場合を考えて、自宅や出先から社内の情報資源に安全にアクセスできるよう、ネットワーク環境、セキュリティ環境を強化することだった。

## 社屋移転の決定でさらに広がったプロジェクトスコープ

そうした中、同社では東京都江東区から東京都新宿区への社屋移転が決定する。これは事業継続計画とは別に進められていたプロジェクトだったのだが、オフィス設計をゼロスクラッチベースで推進できることで、事業継続計画は当初より高い自由度を持つことが可能になった。フリーアドレスや仮想デスクトップをよく考慮して導入すれば、社員はデスクやオフィスに縛られず柔軟に働くことができる。これは災害対策だけでなく、在宅勤務など働き方の多様化につながる施策になるものだ。また、ビジネスのグローバル化が進んでいる同社にとって、いつでもどこからでも同社の情報資源にアクセスできることは、必須のニーズになりつつあった。さらに経営陣にとっても、オフィスでの就業を前提とする環境を変えることで、システム開発・運用業務の生産性向上およびビジネススピードの向上を期待することができた。

このようにして、事業継続計画の立案は、社屋移転決定をスプリングボードに、ワークスタイルの変革というより大きなテーマと拡大していったのだが、そこでの最大のポイントは、“情報資源への安全なアクセスをどこまで担保できるか”だった。

オフィスに縛られないワークスタイルを実現しながら、その一方

で社内の情報資源をさまざまな脅威から守るために、セキュリティはどうあるべきか。同社が検討に検討を重ねた結果、解決策として掲げたのは、SSL-VPNという安全性の高いネットワークの利用と厳格な端末認証という二重のセキュリティである。

今回、情報資源側で仮想化テクノロジーを利用し、Active Directory連携を活用したOS認証も行うという前提条件があり、一般的なセキュリティ考慮ではネットワークで安全が保てれば十分という考え方はある。しかし、同社はこれでは満足しなかった。クオリカ株式会社 技術部 全社ITアーキテクト 主幹 坪口智泰氏は次のように語る。

「当社は、顧客企業のシステムを開発・運用しているという使命感があり、セキュリティ面で妥協はできません。また、今回は国内での展開ですが、今後当社はビジネスのグローバル化を進めていく計画があり、そこへ出ていく前にグローバルクラスのセキュリティを用意しておきたいという意向がありました。顧客企業によってはここまでは必要ないということもあるかと思いますが、セキュリティ感度の非常に高い顧客企業も存在します。そういった顧客企業にも、“ここまで対策しているなら安全”と納得していただける備えにしたかったのです」

## ソリューションの選択肢と実績で選ばれた CA Strong Authentication/CA Risk Authentication

この二重のセキュリティで、端末認証のテクノロジーとして選ばれたのがCA Technologiesの本人特定ソリューションCA Strong Authentication/CA Risk Authenticationである。これは、本人特定を強化する手段として注目されている2要素認証を実現するソリューション。2要素認証とは、「パスワードなどの「知っている」要素と証明書などの「持っている」要素を両方満たすことを意味する。

CAソリューションの特長は、この2要素認証をソフトウェア上で実現できることだ。製品選定段階では「持っている」要素部分を実現するのにUSBキーを用いた認証システムや本人認証用ワンタイムパスワードツールといった方法は始めから除外した。“物”を持たせないことにこだわったためだ。ハードウェアは配布や在庫管理、運用のために多大な人的コストや紛失等によるリスクを覚悟しなければならない。その点、CA Strong Authentication/CA Risk Authenticationはソフトウェアであるために“物”の持ち運びやそのようなコストが発生しない。

しかもCA Strong Authentication/CA Risk Authenticationは、ソフトウェア証明書という形を取ることもできれば、ソフトウェア・ワンタイムパスワードも実現でき、実装に選択肢を持つことができる。PCだけでなくマルチデバイスに対応していることもクオリカが高く評価したのもこの点だった。

同社はまず、事業継続計画の一環として、社員の自宅のPCから社内の情報資源へのセキュアなアクセスを実現することを目指した。あわせて、ワークスタイル変革のために、社員が所有するスマートフォンやタブレット端末を仕事のために利用できる体制の確立を考えた。いわゆるBring your Own Device (BYOD)の実現である。エンドユーザーからは、これらスマートデバイスの利用を望む声が高まっている。しかし、セキュリティへの懸念、端末管理の煩雑さから導入を躊躇したり、導入はするものの端末の機能を制限して管理しやすくするなどの方策を取る企業が今のところ多いようだ。だが、それではスマートデバイスの本来の利便性を生かすきれないこともある。そこでクオリカでは、CA Strong

Authentication/CA Risk Authentication を利用したソフトウェア・ワンタイムパスワードを利用することを決定。これにより個人所有のスマートフォンやタブレット端末の自由な利用を認めながら、情報資源を万全に守ることができると確信したのである。

導入決定に関しては、CA Strong Authentication/CA Risk Authentication の今後のテクノロジー・ロードマップや CA Technologies のコンサルティング部門である CA サービスの存在も大きかった。今後、顧客企業に対してこの機能を展開していく際にもテクノロジーパートナーを任せられると判断できた。

また、CA Strong Authentication/CA Risk Authentication のグローバルでの導入実績も大きな選択理由の1つだった。会田氏は語る。

「CA ソリューションは、銀行やクレジットカード業界など、最も厳密なセキュリティを要求する金融機関で10年近く前から採用されており、非常に信頼感が高かった点も決め手となりました。しかも、この製品はグローバルで名前が知られています。

どんなにいい製品でも知名度が低いと顧客への説明や説得に時間がかかってしまいます。しかし、CA の認証ソリューションといえば、CA Arcot としてセキュリティに関わる方ならよく知っています。これを使って本人を特定しているといえば、セキュリティ意識の高さをアピールできる。CA ブランドを当社の強みとして生かすことができると考えました」

CA Strong Authentication/CA Risk Authentication はクラウドサービスも存在し、導入スピードではこの方法が最も速い。しかし、クオリカではオンプレミスでの適用を選択した。それは、その時点で最適なセキュリティテクノロジーを組み合わせ、クオリカ独自のセキュリティ・ソリューションを構築、ベンダーやメーカーでは持ちえない現場のナレッジを蓄積することを目指したからだ。坪口氏は語る。

「これからはクラウドの時代で、当社も現在展開しているパッケージ・ソリューションを次々クラウド上に展開していく計画を持っています。しかし、セキュリティに関してだけは、オンプレミスでソ

リューションを持つということにこだわりました。それはセキュリティというのは、意外に外部の目に触れるものであり、ここで強いイメージを確立できれば、クオリカブランドの醸成に役立つからです。今回も、SSL-VPN と CA Strong Authentication/CA Risk Authentication を“重ね使い”することにより数多くの新しい知見を得ました。今後、顧客企業に展開する際にも画面上で“Qualica”のロゴを示しながら、“この裏でこのようなセキュリティを実現しています”と説明できると考えています」

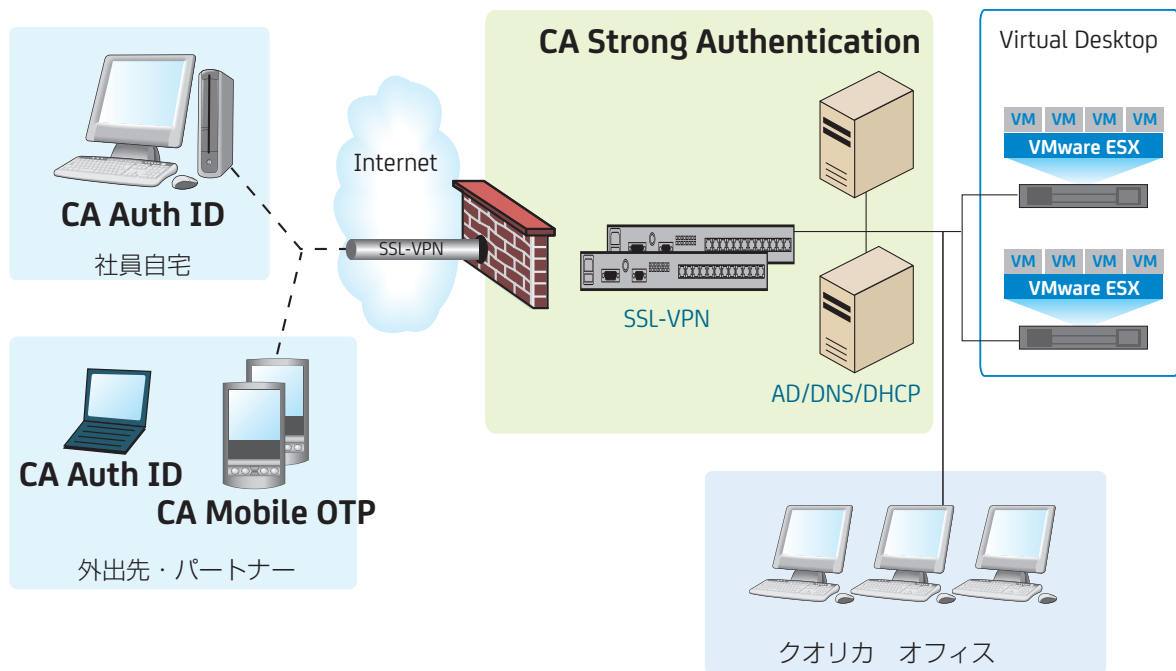
## 情報資源へのセキュアなアクセスが実現する新しいワークスタイル

これまでにないワークスタイルを可能にする新オフィスは、社屋移転を行った2011年12月26日に誕生した。SSL-VPN と CA Strong Authentication/CA Risk Authentication との組み合わせによって、最高レベルのセキュリティとどこからでもシステムを利用できる利便性が両立したのだ。システムの構成としては図1のようになる。ユーザー数は、同社全社員、協力会社の開発者を含め約1,000に上っている。

「オフィスに来なければ資料が見られない、決裁を仰げないといったことがなくなり、業務の生産性向上、業務品質の向上にプラスの効果が表れています。自分の居場所に関わらず、制限なく情報資源をフルに使って仕事ができる点は大きいです(会田氏)」

オフィスは部門の垣根を越えた風通しのいいコラボレーションを重視し、フロアには視界をさえぎる背の高いパーティションは一枚も存在しない。デスクも完全フリーアドレスになっており、生産性を高めるために採用した大型モニターだけがずらりと並んでいるという印象だ。クオリカでは、OS さえローカルに持たないゼロクライアントを選択した。VoIP システムを導入しており、デスク上には電話もない。それでいて、どこに座ってもただちにそこを自席として利用できる。また、同じフロアに、情報共有のための大型モニターやホワイトボードを設置したコラボレーションコーナーが設置されており、予約なしですぐにミーティングできる環境が整っ

図1 クオリカ新オフィスシステム構成図



ている。

コスト面での明確な評価はこれからだが、坪口氏によると従来型オフィスで構築されていたシステムと比較すると、インシヤルコスト、ランニングコストとともに削減が可能なのは確かだそうだ。

「フリーアドレスとゼロクライアント、VoIPなどを組み合わせて導入したことで、今後、組織変更に伴うオフィスレイアウト変更コストはゼロになります。また、ゼロクライアントは、消費電力が従来型PCより40%も抑制可能で環境にもやさしいという利点があります。結果的に社屋移転も実施したことで、極めて柔軟なワークスタイルへの変革と最新鋭にして堅牢なセキュリティを同時に実現できたのです」(坪口氏)

新オフィスの誕生からまだまだ日は浅いのだが、情報資源のすべてをデータセンターに置いた仮想デスクトップの利用は、社員の働き方を確実に変えつつあるという。例えば、社外で業務を行う場合も、個人で管理して持ち歩くファイルやデータが一切なくなったため、紛失や盗難のリスクが解消した。同時に、社外でもオフィスと同様に業務ができるため、オフィスで残業や休日出勤をすることがなくなり、社員が自らのスケジュールに合わせて働く時間をデザインできる体制が整い始めている。海外出張時も、社内と同様の業務ができるのは大きな利点だ。また、同時に災害時の対応も実現できたと会田氏は語る。

「今、ここで仮に直下型大地震が起こったとしても、社員はネッ



全席フリーアドレスのオフィス。奥にはコラボレーションコーナーが見える

トワークが活着ている限り、自宅や出先から社内の情報資源にアクセスすることができます。仮想デスクトップアクセス用のPC等を調達し、仮のオフィスをどこか別の場所に短期間で設置することも容易です。企業活動は止まることはありません」

今後同社では、知識集約型ビジネスへの移行に取り組むとともに、人事システムや勤怠管理など制度面からも新しいワークスタイルを後押しできるようにこの先も変革を進めていく。加えて、新オフィスを、セキュリティを徹底すればここまでワークスタイルを変えられるという、「オペレーション・エクセレンス」のショールームとして、同社国内外の顧客企業に積極的にアピールしていく予定だ。

## 企業プロフィール

### クオリカ株式会社

クオリカ株式会社はコマツの情報システム部門を前身とし、1982年、同社の全額出資により情報システム企業として分社独立した。以来、コマツのITシステムを力強く支えるとともに、流通・サービス業界などに向けても、パッケージソフト開発、システム運用、情報端末製造などを手がける。2008年にはITホールディングスグループの一員に。先進技術を取り入れた高品質・高付加価値なITサービスを武器に飛躍の一途を遂げている。



※製品の詳細情報については、弊社Webページ ([www.ca.com/jp](http://www.ca.com/jp)) をご覧いただくか、CA ジャパン・ダイレクト (0120-702-600) までお問い合わせください。

## CA Technologies

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA 共済ビル  
お問い合わせ窓口：CA ジャパン・ダイレクト 0120-702-600  
WEB サイト：www.ca.com/jp

お問い合わせ

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。  
製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。  
©2014 CA, and / or one of its subsidiaries. All Rights Reserved.